



# 健康百話

～今回は松山赤十字病院の小谷先生にお話を伺いました。～

## 講師紹介

松山赤十字病院  
(小児科)

副院長(成育医療センター長)

**小谷 信行**先生

(こだに のぶゆき)



### プロフィール

昭和50年3月 岡山大学医学部卒業  
平成24年4月 松山赤十字病院副院長

日本アレルギー学会認定アレルギー専門医

日本小児科学会認定小児科専門医

愛媛大学医学部臨床教授

愛媛県教育委員会学校・家庭・地域連携推進協議会委員

小児科の医師13名、産婦人科の医師8名、小児科カウンセラー10名、その他のスタッフとともに「胎児期から大人まで一貫して医療、保健、心理を総合的に支援、治療する」成育医療を平成16年から実践。心身症、アレルギー、摂食障害、育児学、虐待など様々な子どもを取り巻く問題にチームで取り組んでいる。平成24年10月から、文部科学省の「いじめ対策アドバイザー」として国の計画、施策の一部に参画。



電話：089-924-1111

住所：〒790-8524

愛媛県松山市文京町1番地

■ホームページ—<http://www.matsuyama.jrc.or.jp/index.shtml>

## 健康情報!

## 赤ちゃんの食物アレルギーを防ごう

赤ちゃんは、生後数ヶ月から色々なアレルギーを起こすことがあります。特にお父さん、お母さんやきょうだいにアレルギーの病気がある場合には注意しましょう。

以前は、早くから卵や牛乳を摂取することによって食物アレルギーが発症するのだらうと思われていました。しかし最近は食べ物が湿疹や被れた皮膚に付くことによって、皮膚を通してアレルギーが起こるのではないかという説が有力になってきました。これを経皮感作といいます。

赤ちゃんの食物アレルギーを予防するためには、適切な食事のバランスももちろん大事ですが、ミルクや食べ物、特に卵がお母さんの手や赤ちゃんの手、皮膚に付いたときに、気を付けることが必要です。お母さんの手を通して赤ちゃんの皮膚に付いたり、赤ちゃん自身の食べこぼしが皮膚に付いたりすることが、アレルギーを発症する原因になる可能性があるのです。赤ちゃんの口の周りや食べ物が付いたところをよく拭くこと、そして調理後、食前、食後に赤ちゃんに触る場合は、お母さんが手を洗うことを心がけましょう。

食物アレルギーを発症して蕁麻疹などが出た場合、病院で検査を受けるとアレルギーの原因が分かります。場合によっては、除去食やアレルギー用のミルクを使うことが必要になります。かかりつけの先生に相談して、予防と治療を進めるようにしましょう。

### よいこになおれ 使っていません

アレルギー特定  
原材料等25品目



キューピーベビーフード

キューピーベビーフードでは、複数の食物を原因としたアレルギー症状にお悩みのお子さまへ、特定原材料等25品目不使用の「よいこになおれ」シリーズをご用意しています。



ママかパパがアレルギー体質、  
上のお子さんがアレルギーを経験、  
そんな赤ちゃんに特におすすめします。

すべての牛乳たんぱく質を消化吸収のよいペプチドとし、ミルクのアレルゲン性に配慮しています。(ミルクアレルギー疾患用ではありません。)

●栄養成分の量とバランスを母乳に近づけています。  
●母乳が足りないとき、新生児期から安心してお使いいただけます。

厚生労働省許可 乳児用調製粉乳

森永ベブチドミルク **E赤ちゃん**

●妊娠・育児情報ホームページ「はぐくみ」 <http://www.hagukumi.ne.jp>

森永乳業

